



ともし考え、ともしつくる



トップメッセージ

ともに考え、ともにつくる

激動する世界で、メディアをめぐる環境もめまぐるしく変化しています。インターネットやソーシャルメディアは、私たちの暮らしに欠かせない便利なメディアですが、そこには不確かな情報も大量に飛び交っています。そんななかで、確かなファクトを知りたい人々の期待にこたえ、価値ある情報を届けていくという、私たち報道機関の責任は、これまで以上に重くなっています。

よりよい明日のため、私たちは「ともに考え、ともにつくる」という企業理念を掲げました。声なき声に耳を傾け、健全に、公正に、そして謙虚に。私たちの原点であるジャーナリズムをしっかりと守りながら、人々の興味や関心への感度を高め、暮らしを豊かにするサービスも充実させる。既成概念にとらわれない「総合メディア企業」を目指しています。

取り組みの一つとして、私たちは、国連が進める「持続可能な開発目標」(SDGs) への理解を広め、目標の達成を後押しする活動を始めました。

様々な異変に見舞われる地球を、次世代によりよい状態で引き継ぐには、何をなすべきか。持続可能な成長によって、地球規模の課題を解決していくという大きな目標に向けて、市民社会や企業、そして多くの若者たちとともに挑戦していきます。

ジャーナリズムを核とした「豊かな暮らしに役立つ総合メディア企業」への進化を目指し、私たちは、歩き続けます。

朝日新聞社 代表取締役社長

渡辺雅隆

CONTENTS

- 1 トップメッセージ
- 3 **特集** SDGs 報道でみる
- 5 **特集** SDGs 活動でみる
- 9 進化するデジタル
- 10 メディアラボ
- 11 報道トピックス
- 13 新聞づくりを支える仕組み
- 15 朝日新聞社のあゆみ
- 17 文化・スポーツ支援
- 18 教育支援・表彰
- 19 都市のランドマーク
- 20 グループ紹介
- 21 会社情報



特集 SDGs 報道でみる

SDGsを深く広く報道 課題解決をともに考える

貧困や教育、気候変動など世界が直面する様々な課題を
2030年までに解決することを目指すSDGs（持続可能な開発目標）。
この取り組みに賛同する朝日新聞は、17年1月からキャスターの国谷裕子さんを
ナビゲーター役に迎え、大型企画「2030 SDGsで変える」など、
紙面やデジタルでSDGsに関する報道を強化しています。

キャンペーン企画 「2030 SDGsで変える」

国内の課題と、国境を越えて絡み合う問題。
それらを同時に解決していくために国際社会が合意した「ものさし」が、SDGs
です。個人の行動も重要な要素で、買い物の
仕方を考え、働きがい追求することなど、
目標の達成につながります。私たちの
日常生活にもつながる地球規模の課題を、
どのように解決すればいいのか、読者の
みなさんとともに考えていきます。朝日
新聞デジタルでは、2017年1月に特設ページ「SDGs 国谷裕子さんと考える」を
オープン。国谷さんが国連の責任者や経済人ら
にインタビューし、SDGsの重要性について
考えてきました。



<http://www.asahi.com/special/sdgs/>



「新しいものさし」で考えよう

SDGs（Sustainable Development Goals）
とは、「誰一人取り残さない」という理念のもと、
貧困や格差をなくし、持続可能な社会を実現するために2030年までに世界が取り組む
行動計画です。「貧困」「気候変動」など17
分野からなり、「現在1日1.25ドル未満で生活する人々と定義されている極度の貧困をあらゆる
場所で終わらせる」「妊産婦の死亡率を出生10万人あたり70人未満に削減する」「小売り、消費段階での食料の廃棄を半減させる」といった169の具体的目標が盛り込まれています。
途上国だけでなく先進国も含めたすべての国連加盟国が達成すべき目標として、15年の国連総会で全会一致で採択されました。



隠岐諸島にある人口約2300人の小さな町、島根県海士町が目指すのは、人々が安心して働き、学び、その豊かな暮らしが途切れることなく続く未来。まさに「SDGs」の島を国谷裕子さんと取材した



SDGsの17目標

- | | |
|--------------------------------------|-------------------------------------|
| 1 1日1.25ドル未満で生活する極度の貧困をなくす | 9 後発の開発途上国で安価にインターネットを使えるようにする |
| 2 すべての人が一年中安全で栄養のある食料を得られるようにする | 10 各国の下位40%の人々の所得増加率が国内平均を上回るようにする |
| 3 世界の妊産婦の死亡率を10万人あたり70人未満に減らす | 11 災害による被災者を大幅に削減し、経済損失を減らす |
| 4 すべての子どもが無償で初等・中等教育を修了できるようにする | 12 世界全体の1人あたりの食料の廃棄を半減させ、食品ロスを減らす |
| 5 政治、経済などのあらゆるレベルで女性のリーダーシップの機会を確保する | 13 国の政策や計画に気候変動対策を盛り込む |
| 6 すべての人が安全で安価な飲料水を得られるようにする | 14 漁獲を効果的に規制し、破壊的な漁業慣行をなくす |
| 7 再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる | 15 世界全体で新たな森林や再植林を大幅に増やす |
| 8 すべての男女に人間らしい仕事と同一労働同一賃金を達成する | 16 暴力の防止とテロの撲滅のため、国際協力を通じて国の機関を強化する |
| | 17 世界の輸出に占める後発の開発途上国のシェアを倍増させる |

教えて!シリーズや社説でも

複雑になるニュースを、わかりやすく伝える「教えて!」シリーズでもSDGsを紹介しました。社説や別刷り「GLOBE」の特集、読者代表として報道を議論し、点検している外部のパブリックエディター（PE）からの報告などでもSDGsを積極的に取り上げています。





特集 SDGs 活動でみる

目標の達成に向けた グループの取り組み

朝日新聞社はグループ企業や関連団体とともに、社会問題の解決に向けた様々な活動に先駆的に取り組んできました。2004年には、日本メディアとして初めて「国連グローバル・コンパクト(GC)」に参加。今後も、世界を変えるための17の目標の実現を目指して、ともに議論を深め、企業活動に反映していきます。



米アラスカ州の針葉樹林帯。永久凍土が解けてできた融解湖が広がる

01 国民病と向き合う

2人に1人が患い、「国民病」ともいわれるがん。朝日新聞社では、インターネット上の不特定多数から資金を集めるクラウドファンディングサイト「A-port」でがんとの共生をテーマにしたプロジェクトを掲載する特設ページを作りました。そこで、がん患者や家族をサポートしたり、がんの早期発見の大切さを伝えたりするプロジェクトを紹介し、資金調達を支援しています。

がんとともに生きる「がんサバイバー」が孤立しないよう、その家族や友人が寄り添い、仲間との助け合いを強化することは、いまや世界の潮流になっています。関連団体の「日本対がん協会」では、サバイバーを支援する組織「がんサバイバー・クラブ」を2017年6月に設立。信頼できるがん情報が得られる場や治療中の患者が相互交流できる場などを提供し、サバイバーを支える仕組み作りを目指しています。

また、がん同様に社会課題となっている認知症は、25年度に患者数が5



人に1人の約700万人に増えるとみられています。「認知症サポーター」の育成が急務となるなか、朝日新聞販売所(ASA)向けのサポーター養成講座を開催し、17年8月末現在でサポーターになった所長や従業員、関連会社員らは4758人に上りました。新聞

配達で町を回り、高齢者と接する機会も多いASAに対する期待は高まっており、今後も社会で支えていく道を探ります。



02 次世代を見据えて

2016年9月、博報堂とともに、新興国などから注目されている日本の教育手法を広める取り組みとして、小学校高学年が楽しみながら読める無料学習誌「みっけ」を、タイで創刊しました。タイの大手出版社との共同事業で、まずバンコクを中心とした250校に約11万部を無料配布しました(17年9月現在)。

理数系教育に力を入れるタイは科学技術立国・日本の教育に注目しており、朝日新聞出版の学習誌「かがくる」の記事などを生かした「みっけ」は教室で大歓迎されています。今後はデジタル展開も視野に入れ、日本の教育システムや企業の様々な活動を紹介するイベント展開を検討しています。

未来につなぐ文化財の保護にも力を入れています。戦後間もなく火災で焼損した「法隆寺金堂壁画」を次世代に伝えるため、15年に法隆寺が立ち上げた「保存活用委員会」へ加わり、文化庁、関係機関が参加して進める委員会の調査プロジェクトを支援。委員会では、焼損前の壁画を撮影した写真のガラス原板をデジタルデータ化する案も検討されています。



「みっけ」創刊号(上)と教室で配布されたみっけを広げるタイの子どもたち

03 「持続可能」への挑戦

大阪市北区の中之島地区で開発を進めてきた、国内最高峰のツインタワーからなる「フェスティバルシティ」。真ん中を公道(四つ橋筋)が通る、ユニークで独特な景観をつくり出すタワーに大阪本社が入居しています。

タワーは河川水を利用した地域冷暖房システムやセンサーによる調光・空調制御やLED化など優れた省エネ機能を持ち、非常用発電機による72時間電気供給や十分な備蓄倉庫など関西トップクラスのBCP(事業継続計画)や防災・減災に対応しています。

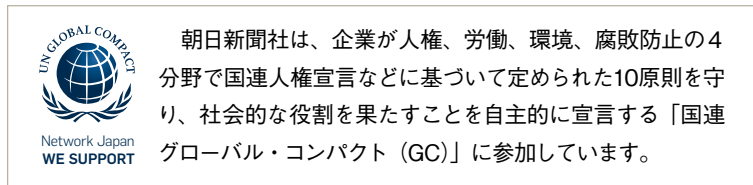
朝日新聞社は2001年に日本の新聞業界で初めて「朝日新聞環境憲章」を制定し、積極的な環境対策を進めてきました。前年度の実態を検証して見直しを行い、結果はウェブサイトなどで公開しています。

日々の新聞印刷を担う朝日プリンテックと、輪転機に使われるゴムローラーの再生装置を共同開発し、17年度の新聞協会賞(技術部門)を受賞。印刷拠点の川崎工場では、12年3月から最大出力100kWhの太陽光発電設備を稼働させています。

また、新聞配送トラック配送後の空荷を利用してパナソニックと始めた異業種共同輸送の試みは、ファーストリテイリング、大日本印刷にも拡大しています。



大阪本社の新社屋が入居するフェスティバルタワーと河川水を利用した冷暖房システム



04 多様な働き方を推進

管理職世代の40歳以上の社員における女性比率に近づけることを目標に、次長以上の管理職ら対象ポストの女性比率を2030年までに25%以上への到達をめざします。16年春に行動計画を策定し、数値目標のほか、男女を問わず働きやすい環境づくりや、女性登用の促進に向けた研修などを実施しています。

仕事がしやすく働きがいのある会社にしていくために、様々な改善に取り組んでいます。満2歳の年度末まで取得できる育児休業や介護休業をはじめ、育児や介護などを理由に退職した従業員の再雇用制度（ジョブ・リターン制度）、在宅勤務制度、スキルアップや配偶者の海外赴任同行や不妊治療のために長期休職できる「自己充実休職」、妊娠・出産、育児・介護休業に関するハラスメント防止規定など、ダイバーシティー（多様性）や人権擁護、多様な働き方やWLB（ワーク・ライフ・バランス）を推進するため、社内制度の整備や研修・啓発を進めています。



結婚休暇は同性パートナーシップにも適用しており、17年4月からは住宅法人契約制度や家賃補助、転任旅費、慶弔金についても制度適用を拡大しました。

日本がもっと働きながら子育てしやすい社会となることを目指して、子育て世代の悩みにフォーカスしたイベント「WORKO!」や、「CHANGE Working Styleシンポジウム」なども開催しています。



仕事と子育ての両立を支援する取り組みで、厚生労働省の認定マーク「くるみん」を2007年以降取得し続けています。



05 ともに考えるイベントを開催

朝日新聞社で最も大きな国際フォーラム「朝日地球会議」では、国内外の第一線の研究者、政策決定者、先端の企業人やNGO関係者などを招き、講演やセッションを繰り広げ、持続可能な社会の実現への解決策をともに探しています。3日にわたり開かれる会議には、学生や学術関係者、省庁や企業などから、のべ5千人の

人たちが集まります。国内外のメディアも取材に訪れます。2017年は、SDGsの提唱者である国連副事務総長のアミーナ・モハメッドさんが、朝日地球会議に出席するために来日しました。

「朝日新聞 未来メディアカフェ」は、参加者と専門家、朝日新聞記者がともに社会的な課題に向き合い、解決へのアイデアを出し合うセッションです。13回目となる未来メディアカフェは、「親子でみらいの地球について『ともに考える』」と題し、SDGsをトピックに、子どもと保護者の方が一緒にワークショップ形式で楽しく課題に取り組む特別版を開催しました。



朝日地球会議 2017

会議に出席した、国連副事務総長のアミーナ・モハメッドさん（右）



その他の取り組み

宇宙開発見据え

月面探査レースに日本から唯一参加する「チームHAKUTO（ハクト）」とメディアパートナー契約を結び、紙面やデジタル媒体での報道、各種イベントを行い、民間企業による宇宙開発の動き全体を幅広く支援



社外の声・評価を元に

パブリックエディター（PE）制度を2015年に導入し、翌年、PEが中心となる「あすへの報道審議会」を発足、読者の声や社外の評価などを踏まえて報道を点検する仕組みを充実

誰もが輝ける未来を

子どもの貧困対策や自閉症理解のためのフォーラム開催、高齢ドライバーについて考える講演会開催、児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金活動など、子ども、障がいのある人、高齢者を中心に全国各地でさまざまな事業を実施（朝日新聞厚生文化事業団）

障がい者アスリートたちの「超人」。ぶりにデジタルならではのCG、動画、写真、密着記事で迫った大型企画「チャレンジ wonder athletes」を展開。障がい者による芸術作品のコンテスト「SOMPOパラリンアートカップ」（主催・一般社団法人障がい者自立推進機構など）へメディアパートナーとしての支援など



緑を守る活動

中学生向けの「緑の学習講座」や「国民の森林づくりシンポジウム」の開催、「つくば万博の森」の保全活動などを展開（森林文化協会）

平和の尊さを次世代に

「知る原爆」「知る沖縄戦」を希望校に無料配布。平和学習や修学旅行で活用される

NIE（教育に新聞を）を推進

社員や記者が小・中・高校の教室に出向いて、新聞の基本的な読み方、電子新聞の活用法、ニュースの背景、メディアリテラシーなどを話す新聞出前授業の開催



SDGsという新しい仕組みの認知を高め、行動を呼び起こしていくうえで、メディアの役割は極めて重要だと思います。朝日新聞が、世界の新聞社の先鞭をつける形でSDGsを継続的に取り上げ、会社を挙げて取り組んでいることは極めて先進的であり、心強く思います。

条約や協定と異なり、SDGsの目標達成へ向けた取り組みは、様々な個人やグループ、組織の自主的なアクションに任されています。そうすると、どのようなアクションがSDGsにかなったものなのか、何から始めればよいのか、具体的な事例を知ることが大事になります。これまでの蓄積のうえに、これからもそうした事例を分かりやすく取り上げていただき、自律分散的なSDGsアクションのうねりを生み出していってほしいと思います。

今後はさらに、「SDGs的でない」事を変えていく方策や、そのためのヒントを伝えていってもらいたいと思います。また、日本はとかく外の世界に対して閉鎖的になる傾向がありますが、国連や世界で起こっていることも積極的に伝え、同時に、日本の活動を世界にも伝えていってもらいたいと思います。

[プロフィール]
かにえ・のりちか 慶応大学大学院教授、国連大学サステナビリティ高等研究所シニアリサーチフェロー。SDGs策定過程で研究者の立場から提言し、政府のSDGs推進本部円卓会議構成員も務める。



進化するデジタル

ウェブにスマホに 注目コンテンツ続々

スマホ世代に向けたウェブメディア「withnews」や
地方大会の決勝すべてをライブ中継する「バーチャル高校野球」、
動物たちの様子をぐるっと360度パノラマ動画で見ることができる
「いきもの目線」など、人気コンテンツを多数配信しています。

withnews

withnewsはスマホ世代に向けたウェブメディアです。長距離トラックの「仮眠スペース」を紹介したこの記事。ソーシャルメディアで話題になっていたことをきっかけに、記者が自動車メーカーに深掘り取材をしました。ネット通販が増えたことでトラック運転手の働き方に注目が集まっていたこともあり、大きな反響を呼びました。withnewsでは、これからも、読者がなんとなく気になっていること、そこから見える世の中の「今」を追いかけていきます。

<https://withnews.jp/>



中がベッドルームになっているトラックの装備について深掘り取材



バーチャル高校野球

朝日放送（ABC）との共同運営サイト「バーチャル高校野球」では、2017年夏、甲子園での第99回全国高校野球選手権大会の全試合だけでなく、地方大会の決勝すべてをライブ中継動画で無料配信しました。活躍した選手だけでなく、足がつった相手選手にとっさに水を飲ませた選手や、ずっと仁王立ちしながら最後に涙した応援団長など、様々なストーリーをお届けしました。第100回記念大会に向け、さらにサービスを拡充していきます。

<http://www.asahi.com/koshien/>

沖縄1935 写真でよみがえる戦前

戦前の1935年に大阪朝日新聞の記者が沖縄で撮影したネガ277コマが、朝日新聞大阪本社で見つかりました。復元した写真を手に沖縄タイムスの記者が現地で取材することで、撮影場所や写っている人が特定されました。当時の人々の暮らしが分かる貴重な写真を、両社の共同企画として特集ページで紹介しています。今後は首都大学東京の研究室と共同で、人工知能（AI）の技術と現地取材を組み合わせながら、写真の一部のカラー化を進めています。

<http://www.asahi.com/special/okinawa/oldphoto/>



メディアラボ

新商品・ビジネスづくりの 実験工房

メディアを取り巻く環境が激変するなか、2013年6月に発足した実験工房です。

①新規事業創出 ②出資・投資 ③研究開発 を柱に、メンバー約40人が
新商品・新ビジネスづくりに取り組んでいます。新しい技術を持つ有望な
ベンチャー企業と、本社の各事業部門を結びつける「ハブ」の役割も果たしています。



オープンイノベーションを加速する新たな拠点、メディアラボ渋谷分室



News VR

バーチャルリアリティ（仮想現実）技術を使い、ニュースの現場をスマホやプレイステーションVR（PSVR）などで体験するアプリです。一般的に文字を読む行為で記憶される内容はわずか1割、体験したことは9割を覚えている、と職業体験型テーマパーク「キザニア」の創業者が述べています。VRの利用でニュースをもっと身近にとらえ、「見る」報道から「体験する」報道と幅を広げていきます。



moovoo

暮らしを楽しく、便利にするグッズを1分動画でサクッと紹介するウェブメディアです。社内の新規事業コンテスト入賞を経て、17年春に事業化しました。動画で分散型という、情報の新しい伝え方に日々試行錯誤し、成長中。フェイスブックでは、再生回数が60万回を超えるコンテンツも誕生しました。編集部がお薦めしたいモノを実際に使って伝えるから、リアル。読者の心をつかんでいます。



STARTUP!

社内の新規事業コンテスト「STARTUP!」を毎年実施し、大人のシングル向け交流事業「Meeting Terrace」などを創出。人工知能を使って新聞社の蓄積をいかす自然言語処理の研究や、子会社を通じたベンチャー企業への投資などにも取り組んでいます。

真実は何かを追い求め さらなる挑戦を続ける

「森友学園」「加計学園」めぐる報道でJCJ大賞受賞

財務省近畿財務局が学校法人「森友学園」への国有地の売却価格を非公表とし、その金額が近隣国有地の10分の1である1億3400万円だった――。朝日新聞は調査報道で掘り起こしたニュースを、2017年2月9日付朝刊でいち早く報じました。また、5月17日付朝刊では、安倍晋三首相の知人が理事長を務める学校法人「加計学園」による獣医学部新設計画で、文部科学省が、内閣府から「総理のご意向」と言われたとする記録文書を作成していたとスクープしました。

新聞、放送、出版などのジャーナリストらでつくる日本ジャーナリスト会議（JCJ）は、優れたジャーナリズム活動や作品に贈る17年のJCJ賞で、大賞に朝日新聞社の『「森友学園」への国有地売却と「加計学園」獣医学部新設問題を巡るスクープと一連の報道』を選びました。選考理由で「国政を揺るがす両問題を最初に報じた

後、関連各省の記録文書の存在などを報道し続けた」「民主主義の原則を掘り崩そうとした問題の取材・調査報道の積み重ねの価値は大きく、メディアの存在感・信頼を高めた」と

評価しました。

また、森友学園への国有地売却を巡るスクープで、朝日新聞記者2人が日本外国特派員協会の「報道の自由推進賞」を受賞しました。



当日の紙面づくりのために開かれる「デスク会」。熱い議論が交わされる

子どもたちの問題を 深掘りし、解決の糸口探る

貧困の現場取材し、支援への在り方、制度の課題などを問う「子どもと貧困」や、子どもの命について考える「小さいのち」といったシリーズ企画では、今の子どもたちを取り巻く深刻な現場を深く取材し、みなさんとともに解決の糸口を探ってきました。

「子どもと貧困」は、関西を拠点にした優れた報道活動を顕彰する「坂田記念ジャーナリズム振興財団」の2016年度「第24回坂田記念ジャーナリズム賞」で、第1部門新聞の部（スクープ・企画報道）の1件に選ばれました。



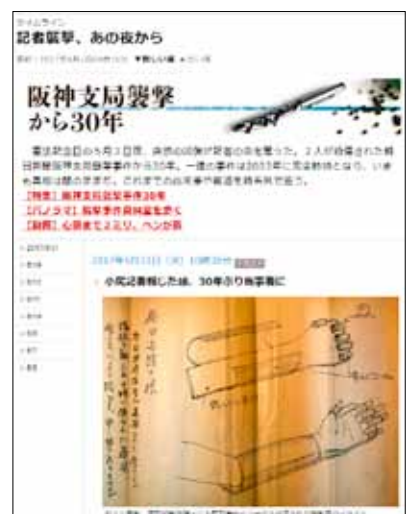
被爆者の声伝える 「ナガサキノート」 連載3千回を突破

被爆者らの証言を伝える長崎総局の地域面連載「ナガサキノート」が、2017年1月18日で、3千回に達しました。20字どり21行の記事で「長崎版」の紙面右下が定位置。被爆者の話を直接聞ける最後の世代が、その証言を毎日少しずつでも載せようと、08年8月10日から連日掲載を始め、一度も休まず続いています。これまで体験を伝えた被爆者らの数は300人以上に上ります。3千回の節目は単なる通過点に過ぎません。まだまだ表に出ず、聞かなければ歴史に埋もれてしまうかもしれない体験があります。これまで通り、紙面の片隅でひっそりと、だが、しっかりと被爆者の声を伝え続けていきます。

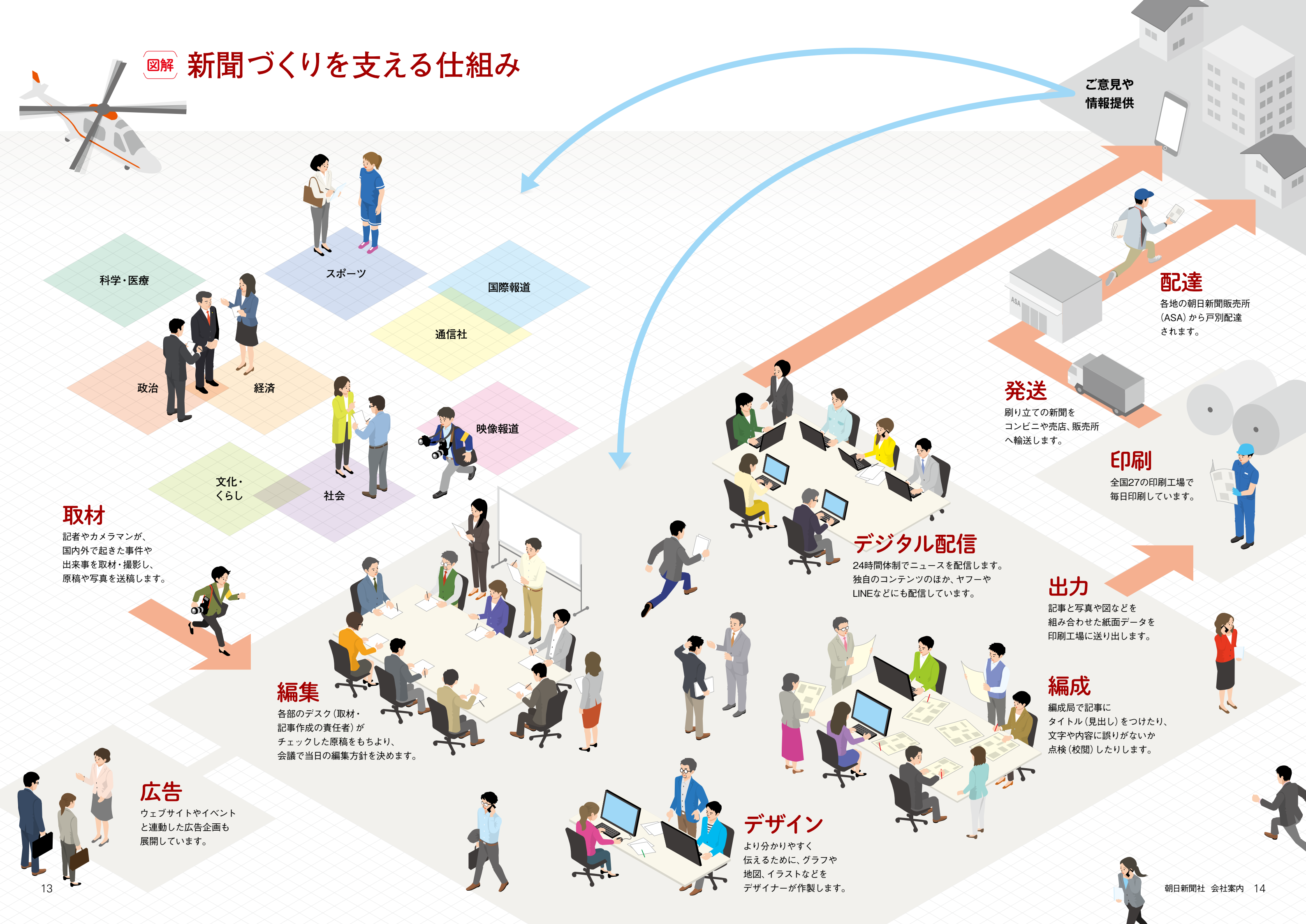
明日も喋ろう 阪神支局襲撃から30年

1987年5月3日午後8時15分、兵庫県西宮市の朝日新聞阪神支局が散弾銃を持った男に襲われ、支局員の小尻知博記者（当時29）が死亡、犬飼兵衛記者が重傷を負いました。事件から30年。歴代の記者は「明日も喋ろう」と事件を語り、取材を続けてきました。一連の事件は2003年に完全時効となり、今も真相は闇のままでありますが、忘れないこと、書き続けることの責務に変わりはありません。

朝日新聞デジタルでは、これまでの一連の出来事や報道を時系列で追った特集「記者襲撃、あの夜から一阪神支局襲撃から30年」を企画し、支局内にある資料室の360度パノラマ写真や、被弾したペンや衣類の展示を解説した動画も公開しています。紙面では小尻記者を知る人や言論の自由を考える人たちのインタビュー企画「明日も喋ろう 阪神支局襲撃から30年」を掲載しました。



図解 新聞づくりを支える仕組み



まもなく創業140年 新たなステージへ

明治

- 1879年1月25日 朝日新聞第1号、大阪で発行。
4ページ、約3千部を印刷。第3号から1部1銭で販売。
従業員は20人不足だった ❶
- 1888年7月10日 「東京朝日新聞」創刊。
翌年1月から大阪では「大阪朝日新聞」に
- 1890年11月25日 東京朝日が日本新聞界初の輪転機を本格稼働。
付録の国会議事録など印刷
- 1904年1月5日 大阪朝日に「天声人語」欄が生まれる
- 1904年3月4日 二葉亭四迷が入社、「其面影」「平凡」を連載、
ロシア特派員として「入露記」を送る
- 1907年4月1日 夏目漱石が入社。「虞美人草」以降
「三四郎」「それから」「こゝろ」など小説は
すべて朝日新聞に連載した。文芸欄も主宰 ❷
- 1909年3月1日 石川啄木が入社、校正係に。
歌人として認められ翌年9月「朝日歌壇」選者に ❸
- 1911年6月1日 東京朝日に「索引部」を創設。
その後「調査部」と改称。日本の新聞で初めて

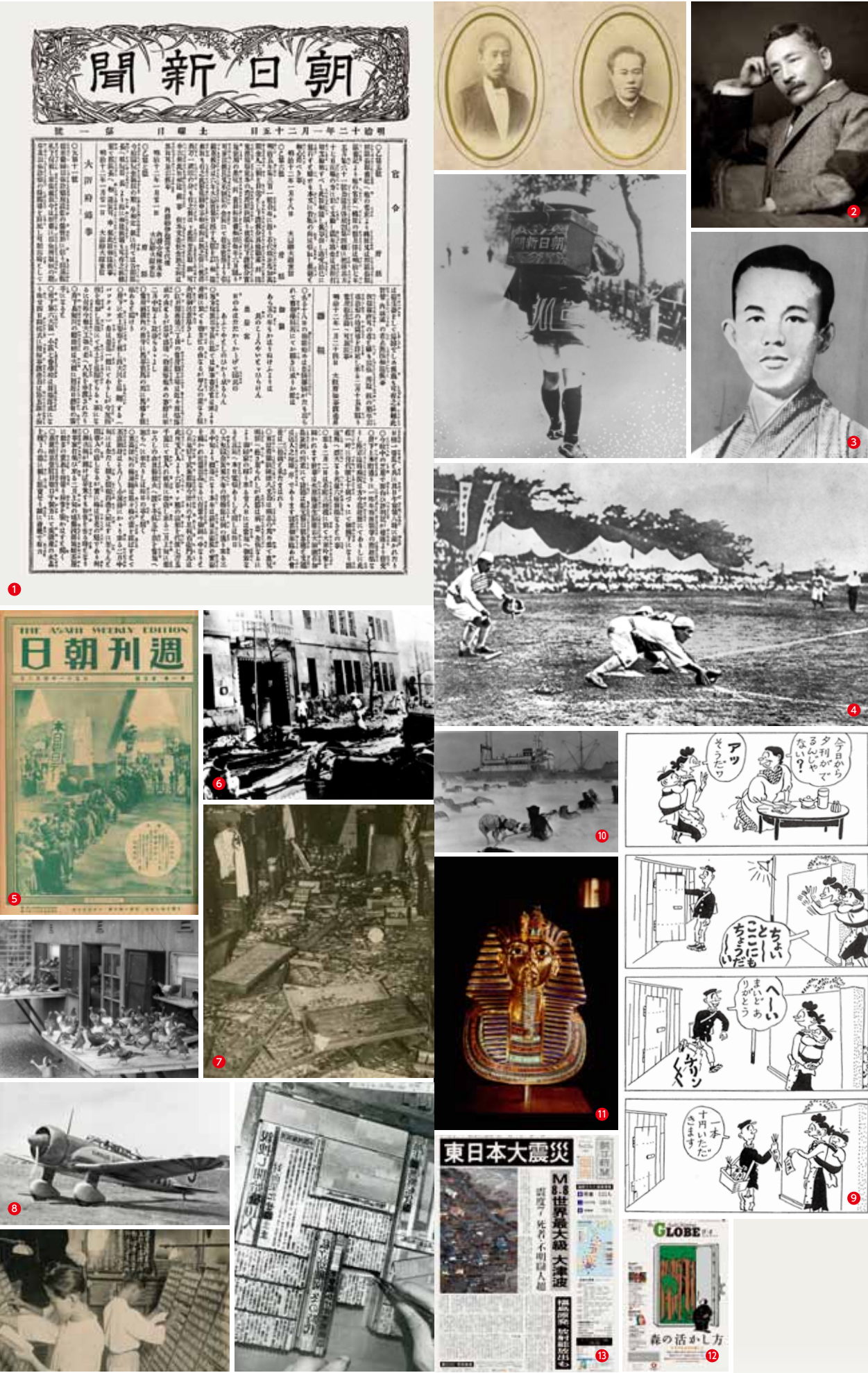
大正

- 1912年7月30日 大正改元を号外速報
- 1915年8月18日 第1回全国中等学校優勝野球大会。24年から
甲子園球場が舞台となり、現在も全国高等学校
野球選手権大会を日本高校野球連盟と主催 ❹
- 1915年10月10日 大阪朝日で初の夕刊発行
- 1922年4月2日 「週刊朝日」創刊 ❺
- 1922年10月21日 日本の新聞で初めて記事審査部創設
- 1923年9月1日 関東大震災で東京朝日のビル内が全焼 ❻

昭和

- 1928年8月27日 東京大阪間で旅客の有料航空輸送を開始。
36年に国策会社は無償譲渡した
- 1929年1月1日 創刊50周年を記念して「朝日賞」を創設。
第1回は翌年1月25日、坪内逍遙、前田青邨らに贈賞
- 1935年11月25日 九州支社に続き名古屋支社で発行開始、
全国紙の態勢が整う
- 1936年2月26日 2・26事件。反乱軍が東京朝日新聞社屋襲撃 ㉗
- 1937年4月6日 社機「神風」亜欧連絡飛行で世界新記録樹立 ㉘
- 1940年9月1日 各社発行の題号を「朝日新聞」に統一

創業者の村山龍平(左)と上野理一(右)



昭和

- 1945年11月5日 戦争報道の責任を明確化するため、社長以下
幹部が辞任。7日に「国民と共に立たん」宣言
- 1949年12月1日 夕刊が復活し、マンガ「サザエさん」の連載開始 ㉙
- 1952年9月1日 朝日新聞綱領を制定。
「言論の自由を貫く」など四つの柱からなる
- 1955年10月1日 南極学術探検事務局を設置。翌年、第1次観測隊が
出発。45次隊では南極支局を開設 ㉚
- 1965年8月21日 ツタンカーメン展を開催。入場総数293万人に ㉛
- 1970年3月1日 第1回全日本大学駅伝対校選手権大会開催
- 1976年2月5日 ロッキード事件の第1報を朝刊でスクープ。
田中角栄前首相逮捕など大汚職事件に発展
- 1979年11月18日 創刊100周年で第1回東京国際女子マラソン大会
- 1980年9月23日 東京本社が有楽町から築地の新社屋に移転。
翌日夕刊からコンピューターでの新聞製作開始
- 1986年1月1日 ロンドンで国際衛星版を発行
- 1987年5月3日 阪神支局が襲撃され、記者1人死亡1人重傷。
名古屋寮襲撃、東京本社銃撃、静岡支局爆破未遂
など警察庁指定116号事件に
- 1988年5月24日 週刊「AERA」創刊
- 1988年6月18日 リクルート関連会社の株譲渡にからみ、川崎市助役
の疑惑をスクープ。政財官界に広がる調査報道

平成

- 1992年8月22日 東京佐川急便事件をスクープ。
自民党の一党支配体制が崩壊に向かう
- 1995年1月17日 阪神・淡路大震災。被災地向けにタブロイド判で
情報紙面を週1回発行
- 1995年8月10日 ネットニュースサイト「アサヒ・コム」開設
- 2001年1月1日 報道と人権委員会が発足
- 2002年4月6日 週末版別刷り「be」創刊
- 2002年5月31日 日韓共催サッカーワールドカップ開幕、
オフィシャルペーパーに。その後も日本サッカー支援
- 2008年10月6日 地球規模の話題を取材した「GLOBE」創刊 ㉜
- 2010年1月1日 「しつもん！ドラえもん」がスタート
- 2010年9月21日 大阪地検特捜部の主任検事が郵便不正事件の
押収資料を改ざんしたとスクープ
- 2011年3月11日 東日本大震災。社説特集「原発ゼロ社会への提言」
を掲載し、「プロメテウスの罠」を長期連載 ㉝
- 2011年5月18日 「朝日新聞デジタル」創刊
- 2013年1月2日 大阪本社が中之島フェスティバルタワーに移転し
新聞製作開始
- 2013年5月7日 「ハフィントンポスト日本版」スタート
- 2017年10月 東京・銀座に「東京銀座朝日ビル」完成

文化・スポーツ支援

質の高い文化やスポーツの 各種イベントを提供

高校野球、2018年に100回記念大会

朝日新聞社は大正時代から高校野球やサッカー、ママさんバレーやウォーキング、障がい者スポーツなど様々なスポーツの支援を続け、多くの催事に関わっています。

日本高校野球連盟とともに主催する全国高校野球選手権大会は、2018年に第100回を迎えます。記念大会は史上最多の56代表が出場し、8月5日に開幕します。戦争による中断など様々な困難を乗り越えてきた大会をさらに発展させ、次の100年につなげていきます。

また、サッカーでは、日本代表、Jリーグ、アジアサッカー連盟などのスポンサーとしてトップレベルのサッカーをサポートするほか、全国少年少女草サッカー大会など幅広い年齢層の大会、イベントを支援しています。



第99回大会で埼玉勢として初優勝した花咲徳栄



史上最大の運慶展など開催

東京・国立新美術館に52万人が来場した「草間彌生 わが永遠の魂」や東京国立博物館での史上最大の運慶展をはじめ、珠玉のフランス絵画コレクションで知られるモスクワのプーシキン美術館の所蔵作品を紹介する展覧会（東京都美術館2018年4月～7月）など、美術や博物、キャラクター展まで幅広く、質の高い文化イベントを数多く提供。東京や大阪のホールでの音楽催事とともに、今後もより高いお客様の満足と付加価値の創出に挑戦し続けます。

上「草間彌生 わが永遠の魂」に多くの来場者が訪れた
下 東京国立博物館で開催した「運慶展」

教育支援・表彰

未来を見据えて 様々な活動を後押し

未来を担う子どもたちの育成を支援

全日本合唱連盟とともに「全日本合唱コンクール」や「全日本おかあさんコーラス」、全日本吹奏楽連盟とともに「全日本吹奏楽コンクール」や「全日本マーチングコンテスト」などの大会を主催し、音楽振興と部活動を通じた子どもたちの育成に力を注いでいます。

また、高校生による科学技術の自由研究のコンテスト、「高校生科学技術チャレンジ」（JSEC＝ジェイセック）をテレビ朝日とともに主催。科学的な課題を自ら見つけて課題に取り組み、国際的にも通用する人材を応援しています。JSECへの応募を機に研究者への道を目指す人も多く、大学や企業で活躍しています。



第69回全日本合唱コンクール全国大会の高校部門で金賞を受賞した松山女子（埼玉）

朝日賞はじめ様々な分野で表彰

朝日新聞社の表彰事業を代表する朝日賞は、1929年の創設（現在は朝日新聞文化財団主催）で、学術、芸術などの分野で傑出した業績を上げ、文化や社会の発展に多大な貢献をした個人・団体に贈られます。大隅良典さん、大村智さんら、後にノーベル賞や文化勲章を受ける受賞者も数多く輩出してします。

また、マンガ文化に大きな足跡を残した故手塚治虫氏の功績を記念し1997年に創設されたのが、手塚治虫文化賞です。そのほか、朝日スポーツ賞、大佛次郎賞・大佛次郎論壇賞、朝日広告賞、木村伊兵衛写真賞などを主催しています。



ノーベル賞に輝いた朝日賞受賞者（朝日賞受賞年度／ノーベル賞受賞年と分野）＊はグループ受賞。敬称略

朝永振一郎（1946年／1965年 物理学）、江崎玲於奈（1959年／1973年 物理学）、利根川進（1981年／1987年 医学生理学）、小柴昌俊（1987年＊／2002年 物理学）、梶田隆章（1987年＊、1998年＊／2015年 物理学）、野依良治（1992年／2001年 化学）、大江健三郎（1994年／1994年 文学）、小林誠（1994年／2008年 物理学）、益川敏英（1994年／2008年 物理学）、赤崎勇（2000年／2014年 物理学）、中村修二（2000年／2014年 物理学）、下村脩（2006年／2008年 化学）、山中伸弥（2007年／2012年 医学生理学）、大隅良典（2008年／2016年 医学生理学）、大村智（2014年／2015年 医学生理学）

都市のランドマーク

大阪や東京・銀座に 新たなランドマーク誕生

水都・大阪の新ランドマーク

2017年春に中之島フェスティバルタワー・ウエスト（西棟、大阪市北区）が完成し、朝日新聞大阪本社のある中之島フェスティバルタワー（東棟、12年完成）とともに、高さ200メートルの国内最高峰のツインタワーからなる新しい街「フェスティバルシティ」が誕生しました。東西両棟合わせて1万2千人が働き、音楽や美術を満喫でき、ホテルライフを楽しめる水都・大阪の新しいランドマークです。



こけら落としを飾った「大阪国際フェスティバル」の公演

フェスティバルホールで 多彩な公演

「天井から音が降り注ぐ」「音楽の殿堂」などと称される東棟の「フェスティバルホール」では、クラシックやオペラ、ポップスから演劇、落語まで、日々多彩な公演が繰り広げられます。西棟では2018年春、仏教美術や茶道具の優品などを所蔵する「中之島香雪美術館」が開館します。

並木通りに 東京銀座朝日ビルが完成

銀座6丁目の並木通りに面した朝日新聞東京創刊の地に2017年10月、東京銀座朝日ビルが竣工しました。1・2階には、高級ブランドが連なる並木通りにふさわしい三つのラグジュアリーショップが出店。さらに18年1月には3～12階に日本初進出の外資系高級ホテル「ハイアット セントリック 銀座 東京」（164室）が開業します。品格と格調のある外観は、グローバルな銀座の新しいランドマークです。

2018年1月には「ハイアット セントリック 銀座 東京」が開業



グループ紹介

出版・文化・広告など グループで総合力を発揮

主なグループ企業・関連団体

新聞・出版・WEB

●朝日学生新聞社 ●朝日新聞メディアプロダクション
●アサヒ・ファミリー・ニュース社 ●日刊スポーツ新聞社 ●日刊スポーツ新聞西日本 ●北海道日刊スポーツ新聞社 ●朝日新聞出版 ●朝日インタラクティブ ●ザ・ハフィントン・ポスト・ジャパン ●サムライト

文化

●朝日カルチャーセンター（札幌、新宿、立川、横浜、湘南、千葉、名古屋、中之島、くずは、京都、芦屋、川西、北九州、福岡の各教室）

広告

●朝日広告社 ●朝日エージェンシー ●朝日アドテック ●関東朝日広告社（宇都宮） ●東日本朝日広告社（仙台） ●三和広告社 ●朝日エリア・アド（大阪） ●大阪朝日広告社 ●朝日広告社（小倉） ●中部朝日広告（名古屋）

折込広告

●朝日オリコミ（東京） ●朝日オリコミ大阪 ●朝日オリコミ西部（福岡） ●朝日オリコミ名古屋 ●朝日サービス（札幌）

印刷・発送

●朝日プリンテック ●日刊スポーツ印刷社 ●トッパンメディアプリンテック東京 ●トッパンメディアプリンテック関西 ●朝日産業 ●北海道日刊スポーツ印刷社

販売関連・即売

●朝日新聞販売サービス ●朝日トップス ●朝日販売サービスセンター（大阪） ●朝日販売サービス（福岡） ●朝日新聞販売サービス名古屋 ●朝日サポートセンター（名古屋） ●新販（大阪）

海外

●朝日新聞アメリカ社（ニューヨーク） ●朝日新聞アジア（シンガポール）

旅行

●朝日旅行

不動産・ビル管理

●朝日ビルディング ●朝日建物管理 ●朝日新聞リアルエステート ●有楽町センタービル管理 ●千里朝日阪急ビル管理

業務支援・人材サービス

●朝日新聞総合サービス

その他

●宮本商行 ●朝日エアポートサービス ●朝日メディアラボベンチャーズ

放送

●テレビ朝日ホールディングス ●北海道テレビ放送 ●名古屋テレビ放送 ●朝日放送 ●九州朝日放送 ●青森朝日放送 ●岩手朝日テレビ ●秋田朝日放送 ●東日本放送 ●山形テレビ ●福島放送 ●新潟テレビ21 ●長野朝日放送 ●静岡朝日テレビ ●北陸朝日放送 ●広島ホームテレビ ●山口朝日放送 ●瀬戸内海放送 ●愛媛朝日テレビ ●長崎文化放送 ●熊本朝日放送 ●大分朝日放送 ●鹿児島放送 ●琉球朝日放送 ●ビーエス朝日 ●スカイ・エー

関連団体

◆森林文化協会 ◆こどもの国協会 ◆ベルマーク教育助成財団 ◆ウェブベルマーク協会 ◆日本対がん協会 ◆大阪対がん協会 ◆朝日新聞文化財団 ◆朝日新聞厚生文化事業団 ◆全日本写真連盟

（順不同）

朝日新聞出版

教育漫画「サバイバル」が 年100万部のベストセラー



2008年に朝日新聞社の出版本部が独立して生まれ、10周年を迎えました。定期雑誌はもうすぐ創刊100年の「週刊朝日」、独自のブランドを確立した「AERA」、カメラ誌首位の「アサヒカメラ」など16誌。書籍は小説「星の子」（今村夏子著）が初の芥川賞候補になり、教育漫画「サバイバルシリーズ」は毎年100万部の大ヒット商品です。デジタルの「AERA dot.（アエラドット）」は雑誌系ニュースサイトの上に食い込んでいます。

会社情報

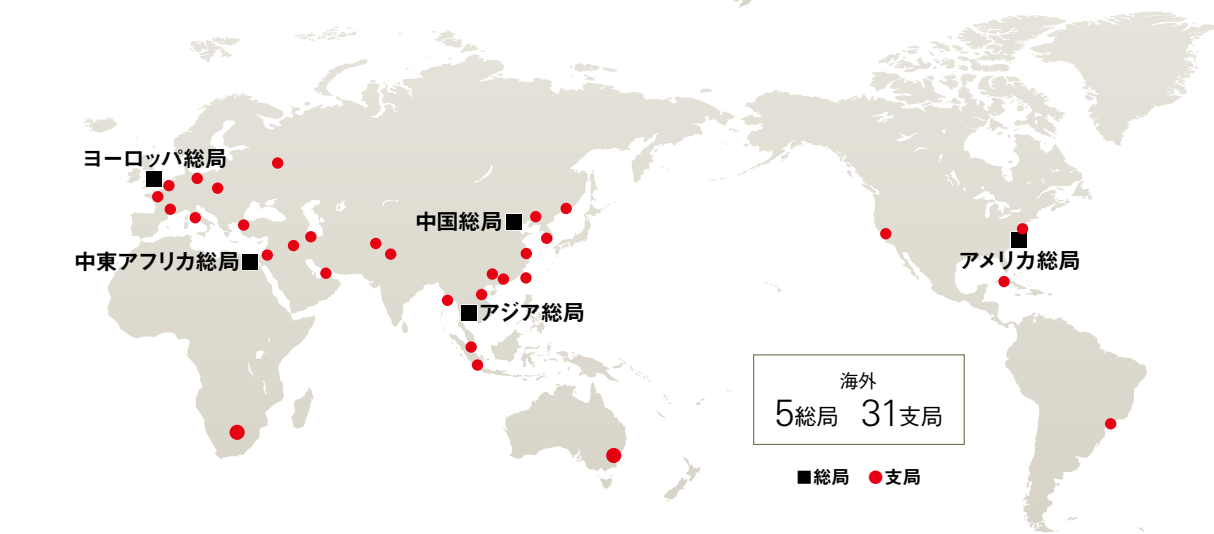
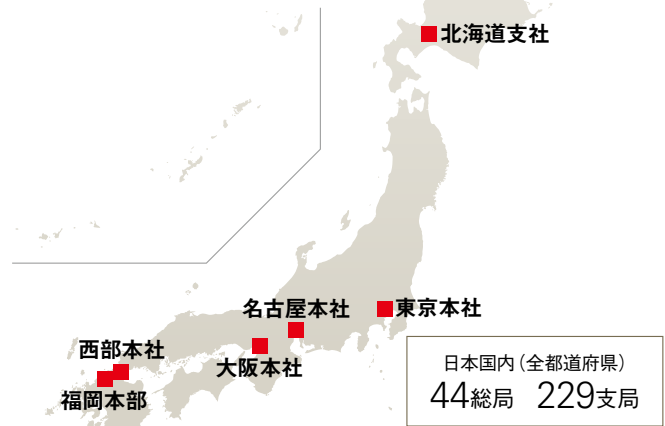
会社名 株式会社朝日新聞社
社主 村山 美知子
代表者 代表取締役社長 渡辺 雅隆
資本金 6億5,000万円
創刊 1879 (明治12) 年1月25日
営業内容 日刊新聞の発行 ほか
売上高 2,623億9,300万円 (2017年3月期)
社員数 4,449人
(男性3,617人、女性832人／2017年4月現在)
所在地 東京本社
〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
大阪本社
〒530-8211 大阪市北区中之島2-3-18
西部本社
〒803-8586 北九州市小倉北区室町1-1-1
名古屋本社
〒460-8488 名古屋市中区栄1-3-3
北海道支社
〒060-8602 札幌市中央区北2条西1-1-1
福岡本部
〒812-8511 福岡市博多区博多駅前2-1-1
年間平均部数 朝刊641万3千部／夕刊202万6千部 (2017年3月期)
印刷拠点 全国27カ所
保有航空機 小型ジェット 1機／ヘリコプター 5機



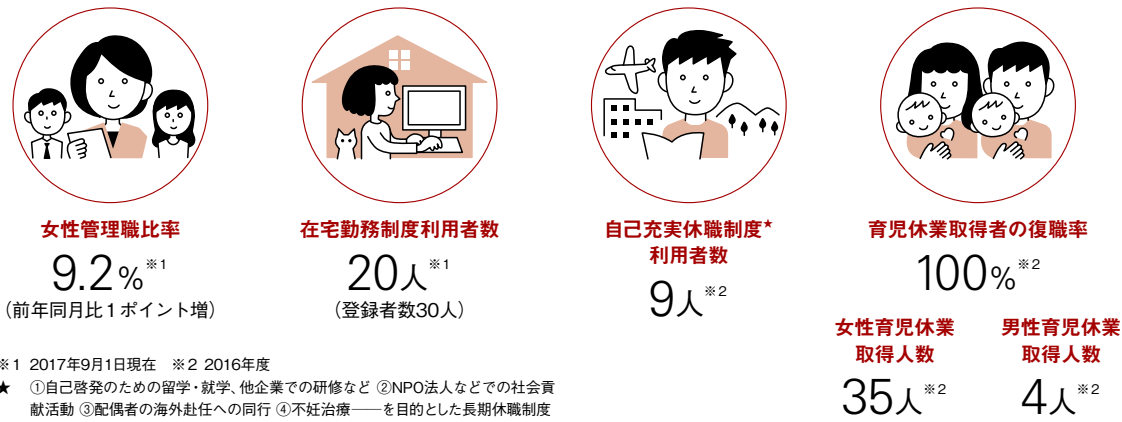
新たに導入したヘリコプター「あかつき」。現場から生中継もできる

国内外の取材網

計309拠点 (2017年6月1日現在)



数字でみる働き方



大阪本社



東京本社



朝日新聞の題字

題字の書体は中国・初唐の三大家といわれる欧陽詢が書いた「大唐宗聖観記」の碑から文字を集めて作られました。図柄は、北海道・東京発行の紙面では「朝日にちおう山桜花」の和歌にちなんで桜を使用。名古屋・大阪・西部発行の紙面では葦を使用しています。これは、当時の主幹のあいさつにあった「難波津によしとあしとをかき分けて」という言葉から取ったとされています。

朝日新聞綱領

- 一、不偏不党の地に立って言論の自由を貫き、民主国家の完成と世界平和の確立に寄与す。
- 一、正義人道に基いて国民の幸福に献身し、一切の不法と暴力を排して腐敗と闘う。
- 一、真実を公正敏速に報道し、評論は進歩的精神を持してその中正を期す。
- 一、常に寛容の心を忘れず、品位と責任を重んじ、清新にして重厚の風をたつとぶ。

1952年制定

朝日新聞環境憲章

〈基本理念〉

21世紀を迎えて、ますます全人類的な課題となる環境・資源問題に対し、朝日新聞社は、これまでの姿勢、取り組みをさらに強め、国民の意識を先取りした環境先進企業となるべく、全社をあげて環境改善に努める。

〈基本方針〉

1. 事業活動によって発生する様々な廃棄物などの再資源化をより一層進める。
2. エネルギー利用をさらに効率化し、環境への負荷を低減する。
3. 環境関連の諸法令や自治体条例の順守にとどまらず、これらの先を行く努力をする。
4. 社内広報や啓蒙活動を通して、社員一人ひとりの自覚を高め、日常の行動に反映させる。

2001年1月1日



『「三井物産の森」北海道 間伐促進吸収プロジェクト』のカーボンオフセットで制作

この会社案内は、小冊子発行によって排出された二酸化炭素などの温室効果ガス量を計算して(1冊あたり290g)、その排出に見合った量を「三井物産の森」を手入れし育てることによって吸収された二酸化炭素で、オフセット(埋め合わせ)をしています。



1部あたり
290g
CO₂

CO₂の「見える化」
カーボンフット
http://www.cfp-japan.jp
CR-BS05-17019



朝日新聞社 CSR推進部
〒104-8011
東京都中央区築地5-3-2
Mail: csr-t@asahi.com
FAX: 03-3541-8999
購読・配達のお問い合わせ
(受付午前7時～午後9時)
0120-33-0843

イラストレーション：若泉祥子 (13・14・21ページ)
デザイン：FROG KING STUDIO